

ANOR ニュースレター From JORA 2005年12月28日

## 1. 行事

ORBIT 2006年コンフェランスへの論文応募(ORBITは有機物回収並びに生物的処理の略で、欧州では、最も影響力のある、バイオマスの団体である)

JORAの呼びかけで、2006年9月13-15日間、ドイツのワイマールで開催予定のORBITのコンフェランスの論文応募に下記の7名が参加された。内容に興味のある方は、英文であるが[www.jora.jp/anor](http://www.jora.jp/anor)のNewsletterを参照されたい。

- (1) 秋田県立大学教授、ANOR運営委員会委員長 茅野充男先生 “有機廃棄物中の有機酸利用による、汚染重金属除去後のバイオウエイストのコンポスト化”
- (2) 日本大学教授 野池達也先生 “ジャガイモ廃棄物利用による、水素、メタンの2段階生産の推進”
- (3) (財)応用微生物研究所 加藤氏 “磷脂質酸利用による、コンポストの熟度判定”
- (4) 秋田県立大学 平野氏 “加圧炭酸水利用による、コンポストの脱臭処理”
- (5) 東京大学 後藤氏 “下水汚泥コンポスト投与による土壌並びに作物への亜鉛と銅の残留”
- (6) 富良野市役所 関根氏 “生分解性プラスチック製ゴミ袋使用による、有機性廃棄物のリサイクル推進による、再生可能社会への挑戦”
- (7) (株)荏原製作所 石川氏 “製紙会社に於ける、バイオマスボイラー利用による、コージェネレ・システム”

## 2. 情報

### (1) ドイツに於ける、最近のバイオマス事情

当協会の関係する協会の主催で、2005年11月18日に、ドイツのバイオガス利用に関するシンポジウムが開かれ、ハンブルグ工科大学のヘルベルト・メルケル教授から、興味深いお話をお聞きする事が出来た。

同教授はドイツのバイオガスの電力エネルギーに占める、シェアが、2005年の0.9%から、2020年には、17%になるとされており、ドイツ政府の後記するバイオマス利用促進策が、大きな役割を果たしていると、講演された。

ドイツでのバイオガス発電収入(2004年7月施行)

プラント規模別の収入保証

0 - 150 kW	11.5セント kWh 当たり(約17円)
150 - 500	9.9
500 - 5000	8.9

2004年以降に操業するプラントは、1年遅れる毎に収入が1.5%減少する。

資源作物使用に依る加算金： 6. 0セント kWh 当たり（約9円）  
熱使用に依る加算金： 2. 0セント kWh 当たり（約3円）  
新技術使用に依る加算金： 2. 0セント kWh 当たり（約3円）

20年間法律に依り収入は保証されている。

#### バイオガスプラントの経済指標

##### 算定基礎

設定電力量： 500 kWh  
投資金額： 160万 Euro（約2億4000万円）  
投与量（家畜尿、糞、資源作物）21,000トン/年間

##### コスト：

アニューイティー 19万 Euro/年間（約2,850万円）  
（償却、金利等の年賦金）  
熱源 18万 Euro/年間（約2,700万円）  
人件費 7万 Euro/年間（約1,050万円）  
維持費 6.5万 Euro/年間（約975万円）  
雑費 5万 Euro/年間（約750万円）  
計 55.5万 Euro/年間（約8,325万円）

##### 収入：

電力 64万 Euro/年間（約9,600万円）  
熱 8万 Euro/年間（約1,200万円）  
計 72万 Euro/年間（約1億800万円）

（2）日本企業に依る、マレーシアに於けるケナフを原料とする、建材ボードの生産  
日本を代表する家電メーカーである、パナソニックのグループ企業である、松下電工は2005年4月より、マレーシアのクアantanでケナフボードの生産を開始した。  
同社は、通常、樹齢100年を超えるラワン材を建材の原料に使用しているが、ラワン材より、再生能力に優れたケナフを原料とする建材の生産を目指している。  
ケナフは僅か6ヶ月で直径3センチメートル、3-4メートルの高さに成長し、成長過程でラワンよりも、効率的に一酸化炭素を吸収出来る。  
詳細は下記ウェブサイト参照されたい。  
（[www.panasonic.co.jp/ism/kenaf/00.html](http://www.panasonic.co.jp/ism/kenaf/00.html)）

j